

# 寄留者

Vol. 34, No. 1

SOJOURNER

Winter 2020



Lord, make me an instrument of your peace:  
where there is hatred, let me sow love;  
where there is injury, pardon;  
where there is doubt, faith;  
where there is despair, hope;  
where there is darkness, light;  
where there is sadness, joy.

*Prayer of St. Francis-In Honor of Eiko Frances Uematsu-Newly Baptized*

---

# KIRYUSHA

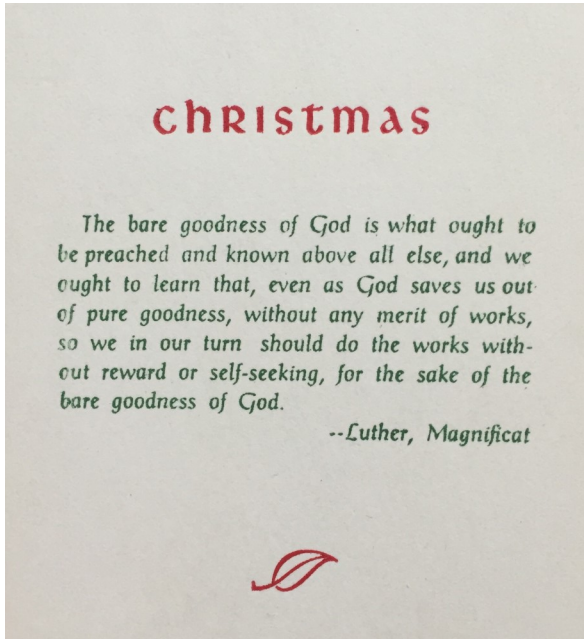
## 寄留者達。

今日の危機を回避するために、私たちは皆、人類共通の目的に向かって進んでいるということを再確認しなければなりません。誰一人とし自分の力のみではこの感染症から救われないのです。

我々をお互いに結びつけるもの、それは連帯、結束感です。これは寛ような行為を行うだけではなく、それ以上に私たちが相互関係によって結ばれているという事実を十分に理解するという事です。このしっかりとした揺るぎない相互関係があれば、より優れた、今までとは異なる未来を築く事ができると思います。

ローマ法王 フランセス

ニューヨークTimes 11/29/20



## SOJOURNERS

To come out of this crisis better, we have to recover the knowledge that as people we have a shared destination. The pandemic has reminded us that no one is saved alone. What ties us to one another is what we commonly call solidarity. Solidarity is more than acts of generosity, important as they are; it is the call to embrace the reality that we are bound by bonds of reciprocity. On this solid foundation we can build a better, different, human future.

*Pope Francis-NYT 11/29/20*

# In Memorium 2019-2020

Tomoko Nakano アグネス 中野友子  
Mrs. Elisabeth Lloyd エリサベツ・ロイド  
The Rev. Rayner (Rusty) Hesse ラステイー；ヘシー司祭  
Mr. Ippei Shima and Mrs. Sumino Shima 嶋一平・嶋すみの  
Mr. Fujio Ito 伊藤富士男  
The Rev. Brother David Allen デイヴィッド・アレン司祭  
Ruth Sumiko Toyama ルツ 遠山澄子  
Dr. Anuradha Baruah アヌラダ・バルア  
The Rev. Aisaku Ogasawara イサク 小笠原愛作司祭

---

## カテキズムの集い：2021年1月から、毎週火曜日午後7時から8時(Zoom)

信仰とは何か、キリスト教の問いとは何か、宗教と文化の関係とは？ 毎回、聖書をはじめとしたキリスト教に関わるバラエティ豊かなテキストから小さなサンプルを取り上げて、時代や文化を超えた声に触れつつ、堅苦しくなることなく、素朴でも根本的な問題を会話の中で考えあう会です。ご希望の方は榎原美美子(fumikosakakibara@gmail.com)までご連絡ください。ズームのリンクをお送りします。

1月5日 (火) 祈るってなに？

1月12日 (火) 創造：神とは誰か

1月19日 (火) イスラエルとナザレのイエス

1月26日 (火) 律法とキリスト教

## MJM CATACHISM: Starts January 2021, Every Tuesday 7-8 pm (Zoom)

What is faith? What are the most fundamental questions of Christianity and how does culture come into play? Each session will introduce samplings of a variety of voices and texts from the classics of Christian spirituality as well as the Bible for discussion and exploration of rich tradition across time and space. Please reach out to Fumiko (fumikosakakibara@gmail.com) and she will get back to you with the Zoom link information.

Jan 5 : What is prayer?

Jan 12 : The uniqueness of Creator God

Jan 19 : Israel and Jesus Movement

Jan 26 : Law and Christianity

# 貴方の宿に泊まることができますか？

理事長からのクリスマスメッセージ     デイヴィッド・エディー

二千年前、ヨセフとマリアは見通しのない暗い現実を抱えていました。二千年後の現在、周囲を暗くおおう感染拡大の前に、私達も不安と困惑の状態の中にいます。ヨセフとマリアはベツレヘムへ戻り登録をすることになり、21世紀の我々はコロナ感染を防ぐため まだ不安の残るワクチンを受けようとしています。

寄留者の読者の多くは 社会的にいえば宿屋の主人の立場に当たり、一晩の宿を求める生活困窮者ではありませんが、守らねばならないものもたくさんありそのためにその他のことに扉を閉ざしています。不安な事は多くありますが、生きていくことを望むのならば、心の覆いを取り、見知らぬものを受け入れるために扉を開く必要があります。

今までの状態、恒常性を変えること。感染を見越すこと。そうすることがわれわれを弱めるのではなく、強め元気を与えてくれるのです。

先日の日曜日、教会でマタイの福音書が読まれました。その中の御言葉をのべます。“もっとも小さいものの一人にしたのは、私にしてくれたことなのである。” まさに 汝自身を愛するように 隣人を愛しなさい、と伝えています。

現在の世界は希望がなく人々は分離されています。おびえと不安のある世界。そんな世界においては 上記に述べた言葉は我々に 大切なことは何かを思いださせる助言であり、戒めでもあります。

今回の寄留者の中で 今年亡くなられた方々を覚えます。；中野ともこさん、エリサベスロイドさん、ヘシー司祭、ルツ遠山澄子さん。実はこの方々の人生には共通の糸が一本通っていました。その糸とは それぞれが皆 自らを開き、他の人々を受け入れたこと。それにより受け入れられた人達だけでなく、自ら自身の生活も変わっていきました。

私達は、人生の旅の寄留者です。エマオへ行く途中 見知らぬ人、イエスに会い イエスと関わりを持った二人の弟子のように、今年のクリスマスにこそ私達、人生の旅に向かう者達がすべきこと。それは心の扉を開き、見知らぬ人を夕食に招き入れ、一緒にひと時を過ごすことではありませんか。それこそ “ 実に私達の心がわれわれのうちで燃える。 “ 事になります。

# IS THERE ROOM IN YOUR INN?

## President's Christmas Message David Eddy

Two thousand twenty years ago, things were pretty bleak for Joseph and Mary. Fast forward to today's pandemic shrouded landscape and there is a palpable sense of unease and uncertainty. Joseph and Mary returning to Bethlehem so they could be taxed; us in the 21<sup>st</sup> century waiting with some trepidation to be vaxxed.

Many of the readers of the *Kiryusha* are inn keepers and not asylum seekers. We have much to protect and in doing so, shut the doors to the great possibilities of life. There is certainly much to fear but like a vaccine, if we want to live, we need to expose ourselves, open the door to allow in these foreign elements. By changing our homeostasis, by allowing some contagion, we strengthen and invigorate ourselves, not weaken.

On a recent Sunday, the Gospel read was Matthew's "for much as you do unto one of them, so you do unto me." Love your neighbor as thyself. In this intensely divided and dark world, a world of fright and concern, it is an important reminder and admonition. This edition of the *Kiryusha* celebrates the lives of many who have died during the past year; Tomoko Nakano; Elisabeth Lloyd; Rev. Rusty Hesse; Ruth Sumiko Toyama; The list is long but a common thread running through each of these lives was that each opened themselves up to others and in doing so changed not just their own lives but those they invited in.

We are sojourners on this journey of life. Like the two disciples on the Road to Emmaus, who met the stranger and engaged with him, may we this holiday season and in our journey to come, open our own door and invite others in to sup with us so that "indeed our hearts may burn within us."

Wishing each of you a merry, healthy and generous Christmas and a brighter new year.

### **MJM Current Board Member**

David Eddy, President; Shoji Mizumoto, Treasurer; Kyoko Toyama, Secretary; Rev. Tami Burks ; Kumiko Buller; Rev. Constance Coles; Makiko Ito; Julia Lloyd; Tomoko Masur; Hatsuyo Stroh; Eiko Uematsu



## **EIKO FRANCES UEMATSU BAPTISM**

On Sunday October 4<sup>th</sup>, 2020 Eiko Uematsu, long time member of MJM was baptized at St. James the Less. Bishop Allen Shin presided over the service that was celebrated by world-wide family of friends and family. In this time of pestilence and isolation, the chance to celebrate new life, the baptismal life, was a welcome reprieve for all of us.

October 4<sup>th</sup> was also the feast day of St. Francis of Assisi. Eiko-san took on the Christian name of Frances in his honor. The gentleness and love of God's creation exemplified by St. Francis seemed to be a perfect fit for Eiko-san.

Eiko has been a long time member of MJM, attending services for decades with her husband Setsuji Uematsu, an integral member of the board. Unfortunately he passed away two years ago. Eiko continued to be a steady attendant thereafter and as the months passed, she quietly made a decision to become baptized.

Her son Kenji attended the service from Amsterdam. He noted that both his father Setsuji and their long time pet Shibu dog, Nobu were most likely looking down on this event with gladness in their hearts.

Although social distancing was called for, the congregants physicaly present spilled out into the beautiful sunny autumn day after the service and raised a small glass of wine to Eiko Frances Uematsu, the newest member of our family. We celebrated the Lord's day well.

MJMの長い間のメンバーである植松栄子さんが、2020年10月4日曜日に St.James the Less 教会で受洗されました。アレンシン司祭から受洗を授けられ、zoomを通してご家族始め広く多くの友人達からお祝いを受けました。コロナ禍の自粛生活の中、MJMFamilyにとって、この栄子さんの受洗は大変うれしい出来事です。

10月4日はアッシジ聖フランシスの祭日に当たる日だったので、それに因み洗礼名はフランシスが与えられました。聖フランセスが表す神の寛大と愛を考えるとこの洗礼名は栄子さんには最適な洗礼名と思われます。受洗にあたり、ご自身は、時間をかけ心静かに準備をなさり、決意を固められた様です。

植松栄子さんは2年前に亡くなられたご主人の節司さんとともに長い間MJMを支え、礼拝はじめその他教会の多くの行事にも参加なさり、節司さんと同様に現在理事会の理事のお仕事もされています。

受洗日にはオランダ、アムステルダムにお住まいの御子息の憲司さんもzoomでご参加。「父、節司も愛犬、のぶもこのうれしい受洗を天国から見守っている。本当に自慢に思う。」と想いを述べられました。この時期のため、ソーシャルディスタンスを重んじて当日の参加者は限られましたが、受洗式後、教会の庭で皆でワインでお祝いをしました。秋の美しい日でした。神様からの特別の嬉しい日でもありました。一



A warm but socially distant reception after Eiko Uematsu's baptism at St. James the Less.



## 母エリサベスの思い出

ジュリア ロイド

聖十字架の友の会を紹介してくれたのは、母であり又その会の仲間であるエリサベス ロイドでした。私は大変嬉しく名誉であると感じておりました。現状のコロナの終息具合によりますが、来年又は再来年、友の会の人々とお会いした時に母の思い出の記を読めるようにと準備しています。

長きにあたりエリサベス自身が書き記し、又 彼女について書かれた資料を集めてきましたので、その中からいくつかをご紹介しますと思います。

以下のお祈りと エリサベスの言葉は母自身が書いたものですが、分裂され孤独の中にいる世界が まさに今必要としていることが書かれていると思います。

母の書いたお祈り二つ。

親愛なる神様、

私達はあなたの愛と思いやりを人々に伝えたいと思っております、容易いことではありません。私たちは 時には、あまりにも遠慮がちで気が変わりやすく、時には、でしゃばりで傲慢です。この思いを実行に移すには時間がかかりますが、人々がより良い人間になれるように この与えられたお仕事を続けるための助けをどうかお与えください。精霊で満たされるようにしてください。人々の必要としていることが何であるかを理解できるようにしてください。(2007)

親愛なる神様、

多くの人々と一緒に過ごせる機会、聖書会、英語のレッスン、ご近所の方々との交流などを与えてくださり感謝いたします。このような機会を大切にしながら、私たちが皆神様の子供であることを思い出させてください。我々が心狭く、怒って、人を非難したい時に、この関係の大事さを心の中に持ち続けさせてください。(2008)

エリサベスがホスピタリティーについて書いた言葉。(2006)

2年前に夫が見慣れない葡萄の苗を買ってきました。玄関前に植え大きく育てて玄関の目隠しにするためです。今年その葡萄は大きくなり、葉っぱもよく育ちました。ご近所のパレスティナ人の婦人がその葡萄の葉っぱを欲しいとおっしゃったので 喜んで差し上げました。数日後、葡萄の葉で包んだお料理が届きました。やがて葡萄は実をつけ始め、それにつられて



鳥が毎日のように実をついばみにやってきました。私は甘い葡萄が鳥に食べられない様に収穫し、お裾分けをしたいと道を挟んだご近所さんを訪ねました。お子さんたちとは話をしましたが、そこのお婆様とはお話はせず、笑顔をかまし、お互いの頬にキスをしてご挨拶に変えました。

良い隣人を持つという事は、なんと素晴らしいことでしょう

私は 大きく成長する葡萄の苗を父が植える数年前、夫のニコラスと共に 日本に暮らしていました。2002年にアメリカに里帰りのために戻りました。その時 沢山の、本当に多くのアメリカ国旗が 家々の表に掲げられている光景を目にしてびっくりしました。

父母の家の通りにある家々も例外なく国旗をあげていましたが、父母の家には国旗がありません。なぜかと 問う私に、母は、“パレスティナ人のご近所さんが 自分たちはよそののだと感じないように。愛国心をあまりに大きく示す事は人々に疎外感を感じさせるものであるから。”と答えました。

母にとって、寛大で優しく、言葉に出さないホスピタリティーは大切なものでした。

我々の住む世界が様々に分けられているとき、友の会のために書いたエリサベスのキリスト教の旅路エッセイから“心の言葉”をここに記します。気に入ってくだされば幸いです。

“静寂のうちに目的をなすため、神様 強さをお与えください。

アメリカの1987年は 極度の貧困、それに反して十分すぎる豊かさがあり、又支援の貧弱さ、未解決なものが山積みであると示しています。さまざまな場所で人々の権利が奪われていることも大変心配しています。デイケアで働いている若者、障害者、年寄り、又 新来者たちの声や意見は届きません。神様 私に何を御望みでしょうか？どのようにしたら神様の声を聞く事ができるでしょうか？ お祈りと、与える事、又は直接何かをすることで役に立つ事ができるのでしょうか？ “

生前 エリサベスが持つ愛によって彼女がクリスチャンであると人々には理解されました。エリサベスの顔、言葉、そして最も大切なことはその行動がひかり輝いていたからです。

亡くなる1ヶ月前にセラピーポニーがセラピーとしてエリサベスを訪れたのですが、エリサベスの優しい心に触れて、その膝の上でお昼寝をしてしまったという話もあります！

エリサベスの生涯を通しての信仰は 同様の寛大な開けたホスピタリティーの心を持って人生を歩めと教えます。よく知らない隣人に対しても心を開き、腹が立つときはちょっと落ち着いて一呼吸しなさいと教えます。

“ 全ての人間関係の中で 私達が平和を作る人として行動できる様に いつも助けてください。 “





## **My Remembrance-Elisabeth Joy Chaplin Lloyd**

By Julia Lloyd

I am graced to have been introduced to the Society of the Companions of the Holy Cross by my mother and fellow Companion, Elisabeth Lloyd. Because of this, I am preparing a memorial for her to be read the next time we Companions are able to meet together, hopefully next year, but perhaps not until 2022. I was sent reference materials that have been gathered over the years which include items written both by and about my mother, some of which I would like to share with you.

The first three items in the folder were written by Elisabeth and really speak to what our poor isolated and divided world needs today:

Two prayers she wrote:

Dear Lord, we want to carry out your mission of love and caring. It is not easy. Sometimes we are shy and tentative. Sometimes we are intrusive and overbearing. Help us reach beyond rescuing to enabling people to be their best selves. Fill us with your spirit and help us to be really sensitive to people's needs. (2007)

Dear God, thank you for all opportunities you give us to share with varied people: Bible study, English lessons, and neighborliness. Help us to treasure these experiences and remember that we are all God's children. Keep these relationships in our hearts when we are tempted to make narrow and angry judgments. Help us always act as peacemakers in all our relationships. We ask this in the name of the Great Peacemaker, and ask for the strength to be doers of the Word. (2008)

A few words she wrote regarding Hospitality (written in 2006):

Two years ago my husband bought a straggly grape vine hoping it would grow and cover an unsightly object in our front yard. This year it burst forth with beautiful grape leaves. My Palestinian neighbors asked for some leaves and we shared them with pleasure. They returned a few days later with stuffed grape leaves on a platter. Next the grapes appeared and so did birds, some quite out of the ordinary. I rescued bunches of sweet purple grapes and took them across the street. I can talk with the children but Grandma and I can only greet each other with a smile and a traditional kiss. It is wonderful to have good neighbors.

A few years previous to the planting of the “straggly vine,” Nicholas and I were living in Japan and came home for a brief visit in 2002. We were not prepared for the many, MANY American flags that seemed to suddenly be displayed everywhere, including on my parents’ street. However, my parents’ house did not include one. My mother explained that she did not want her Palestinian neighbors to feel unwelcome and thought that such an overt display of over-the-top patriotism would do so, and so my parents chose not to hang one. Generous, gentle, and unspoken hospitality was always so important to her.

At this similarly divided time in our world, we should take to heart words from Elisabeth’s Spiritual Journey essay, written for the Companionship:

“I need God’s strength in order to grow in serenity and a purposeful outreach. 1987 shows us an America filled with extremes of poverty and abundance and of poor support mechanisms and outstanding ones. I have great concern for the disenfranchised, particularly in institutions. The young in day care, mentally handicapped citizens, elderly and newcomers have little voice. What is God’s will for me? How do I learn to listen? Do I help through prayer, giving, or direct ways?”

Elisabeth personified in her living one of my favorite songs: we all “knew she was Christian by her love” which radiated in her face, in her words, and, most importantly, in her actions. Why, even a month before she died a therapy pony knew of her gentle spirit and fell asleep in her lap! The grace with which she lived her life challenges us to continue her mission of generous and open hospitality however we can in our own lives, whether it is in connecting with neighbors we do not know well enough or taking a moment to breathe before reacting in anger: “Help us always act as peacemakers in all our relationships.”



## 2020年9月26日～27日に開催された日系宣教委員会

今年のJ-CON（日系人の集まり）は6月に開催されるはずでしたが、今世界中に広がっているコロナウイルスによるパンデミック発令の為、中止となりました。しかし8月にはバーチャルで、Zoom アップを通して続行と決断が下され、9月の26、27日開催されました。とても活気のある良い会議となりました。

実際に会う事は残念ながら出来ませんでしたが、その代わりに今まで参加できなかった方々も気軽に自宅からの参加が出来るので、東は日本を始め、ハワイ、ロス、サンフランシスコ、ワシントン州、バンクーバー、アトランタ、ペンシルバニア、ニュージャージー、ニューヨーク、ロンドン、と本当に世界中から参加者ができました。

両日とも約40人程の参加者でにぎわいました。中には、聖職の勉強をされている日系の方も参加され、とても活気のあるミーティングとなりました。

話し合いの課題のひとつに「COVID-19 がもたらした変化で良い物は、何かありましたか」とありました。あと人種差別（Racism）に関して何人かの個人談がのべられ、彼らと先祖の方々が受けた、かすかな差別からおおやかな差別の様々の体験談が話されました。私みたいに、親が戦時中アメリカに居たわけでもない者にとっては、目を見開かざるを得ない話でした。

サンフランシスコにある「キリスト教会・聖公会」の設立125周年記念のお祝いを含んだ日曜日の礼拝が最後の行事ごととなりました。英語に日本語が混じった式をデブラ・ロー・スキナー司祭の司式の元で行われました。日本語の部分はMJMの担当でした。母国である日本の礼拝の雰囲気日本語で育っていない日系人である大半の参加者と分かち合う事をMJMとして貢献できてとても良かったと思います。





## J-CON

### Japanese Convocation of Episcopal Asia-American Ministry

September 26 & 27, 2020 .

By Shoji Mizumoto

This year's Pandemic caused the cancellation of in-person Japanese Convocation meeting that was scheduled for June. However, later decision was made in August to have the annual meeting via Zoom Virtual Conferencing. It was shortened to just two days of two hours each, but a wonderful time was had by all.

The down-side was that we could not meet in person, but on the upside the attendance was global, with attendance from all the way in to the West, from Japan, to Hawaii and the West Coast (California, Washington, British Columbia) – to the East Coast and even from London!

We had about 40 persons in attendance on both days. We were able to meet many persons who would otherwise not have been able to attend. We met with several young Americans of Japanese descent some of who are in the process of ordination! The whole event had much energy.

Some of the topics that were covered were, “What positive changes have you seen from COVID-19, either at church or in your community?” as well as Workshop on Racism where some members of the leadership shared their and their ancestors’ experiences living in this country and the subtle and not-so-subtle racism they experienced as they grew up in different areas of the nation. It was an eye opener in many ways for those like myself whose parents did not go through the war time in America.

We closed the convocation with a Sunday worship service in English with Japanese, led by Mother Debra Low-Skinner of the Christ Church Sei Ko Kai in San Francisco which was celebrating its 125<sup>th</sup> years of ministry that very Sunday. MJM was in charge of the Japanese portion of the service. I believe we were able to contribute greatly in sharing the ancestral motherland’s worship experience to the Japanese-American brothers/sisters who did not grow up speaking Japanese, who made up the majority of the attendees.



## **The Sea, The Sky, and Beyond..... Akiko Watanabe**

The world is still dark and quiet in the early morning before dawn. It is 5 a.m. I don't see anything but just vague figures from the balcony. As the sun rises and it gets lighter, I can recognize the great expanse of the sky and the sea with islands dotted over the shimmering water. My new day begins.

This is my regular morning routine: just a simple daily routine, nothing in particular. I say morning prayers. Then, I give plenty of water to my plants, greeting each one of them and asking how it is doing on the day. After that, I sit in front of a computer with a cup of tea. This has been the same routine for these 3 years.

In January 2020, the Covid 19, the pandemic, brought people unimaginable hardships and changes. A large number of people in many areas, North and South America, Europe, and Asia, got infected and the infection has been explosively spreading. We needed to reconsider our lifestyle. Our normal way of living wasn't usual anymore. New normals got under way. We had to get used to them, how to meet people, how to eat in the restaurant, how to spend time, how to travel, and many more. People have started working home. They have stayed home as much as possible to protect themselves from the virus. "Social distancing" becomes an essential rule. Wearing a mask and washing hands thoroughly are also indispensable. But, to make the matters worse, even knowledgeable specialists and doctors can't predict when the pandemic would end. People suffer mental, economic problems. Thinking about all the circumstances, we should change our present customs and accept new ones.

Despite it, it is so fortunate that I don't have to change my regular morning routine. Rather, I have a new message added to it. To see far beyond ,,, I see hope in the bright beyond. The Bible says, "Hope does not disappoint us because God's love has been poured into our hearts through the Holy Spirit," The more challenges we have, the more hope we would have in order to face them with wisdom and courage. I try to spend days accordingly.

The sea, and the sky, and a new plus, hope from the balcony. I am very thankful to see them far beyond the great expanse.

## 海、空、そして遠い彼方。。

渡邊 明子

夜明け前の静寂。早朝5時。やがて 東の空が明るみ 広大な海とキラキラと輝く水面に浮かぶ島々も薄らと見えるようになります。

新しい1日の始まりです。ここ3年こんな朝のきまりが私の日常になりました。当たり前の変わり映えのない1日の始まり。朝のお祈りを捧げ、バルコニーのプラントにたっぷり水をやりながら それぞれの花々に今日のお機嫌を伺う朝。そして お茶を作り、コンピューターに向かいます。昨日と同じルーティーンを今朝も続けます。

今年2020年、1月頃からじわじわとコロナウイルスの襲撃が始まりました。やがて、このコロナウイルスは爆発的にその感染を広げ、南北アメリカ、ヨーロッパ、アジアに住む多くの人々が感染。未知のウイルスとの長い戦いが始まりました。日本ももちろん例外ではありません。今までの日常は消え、普通が普通でなくなり、我々の暮らし方、時間の過ごし方、人との会い方、会食の仕方などが変わりました。又 仕事のやり方を見直し、新しい習慣を立て直せねばならなくなりました。ソーシャルディスタンスは必須となり、手洗い、マスクをつける事も欠く事のできない習慣となりました。その上 このウイルスがいつ終息を迎えるのか、今のところ 世界の医者 や専門家たちも明らかにできないのです。あちらこちらで 精神的、経済的問題が大きいのしかかり、人々は不安や恐れを感じ、考え方の違いから人々の間に分断がはじまっています。行先が見えない事への怯えが様々な問題を起こしているのです。

でも、私の朝の決まりは変わりません。むしろ新しく付けくわえがあります。海と空の向こうにみえるもの。はるか輝く場所からの希望。

“ 希望はわたしたちを欺くことはありません。わたしたちに与えられた精霊によって神の愛が私たちの心に注がれているからです。 “ この聖書の言葉が語りかけるように その希望をもって日々を過ごす様にしています。チャレンジが大きくなればなるほど、私達はあたえられた知恵と勇気を持って立ち向かうのです。

毎朝バルコニーから見る海、空、そしてその先に新しい発見を見えています。神様からのメッセージ、希望です。広大な自然の広がりのもっと彼方から良い知らせがもたらされることを感謝の気持ちと共に待ち望んでいます。

神様からのメッセージ、希望です。広大な自然の広がりのもっと彼方から良い知らせがもたらされることを感謝の気持ちと共に待ち望んでいます。

毎朝バルコニーから見る海、空、そしてその先に新しい発見を見えています。神様からのメッセージ、希望です。広大な自然の広がりのもっと彼方から良い知らせがもたらされることを感謝の気持ちと共に待ち望んでいます。

エリサベス ジョイ チャプリン ロイド  
イノマタ ベッシー

母エリサベスは父ジョンを敬愛、父も同様に母を敬愛していました。真面目な母でしたが、面白い愉快なところもたくさんありました。自分自身をよく知り 対人関係においても他の人を理解し認めることができる女性でした。若い人もそうでない人も喜んで友人として迎え入れました。

いずれにせよ エリサベスは どこから見ても本当の意味での美しい女性であったと言わざるを得ません。

母の年代の婦人の多くがそうであるように、母も聖公会の司祭そして宣教師として奉仕した父を支え、勇気づける伴侶でした。しかもそんな父のそばで自身も教師として楽しんで働いていました。

この勇氣ある女性は 19歳で父と結婚、愛する夫とともに日本へ旅立ちます。そこで 新しい人々、言語、文化に囲まれることとなります。京都で日本語の勉強をし、買い物に行っては店の人々と話すことが日本語の練習でした。又 四日市の聖アンデレ教会では 英語と料理を教えるのです。

母は聡明であり、同時にユーモアあふれる人でした。大学でBA—文学士号を、5人の子育て後は大学院で修士号を取り、宗教、心理学、教育、そして人生に関する話などはかなり専門的。でも 時に楽しく面白い童謡をうたい 我々子供達をいつも大笑いさせていました。私たちに、“最善を尽くし、高みを目指すように”と教えましたが、“慎重深くもあれ”とも言うていました。人が持つ弱点や欠点を寛容な柔らかい心で受け止める母でした。

特に私たち子供が持つ欠点に対して寛大でした。誰も完全ではあり得ないということなのです。エリサベス ロイドにとっては、人は完全でなくて良いのです。本当は、“落ち度のない完璧な人”は好みではなかったようです。

素晴らしき忍耐と優しさ、これこそエリサベスを表す言葉です。家庭で、学校で、教会で 幼い子供たちだけでなく全ての年代の人々とともに過ごし又教え、多くの知性あふれる兵士を世の中に送り出したのです。母は分け隔て無く全ての人々を愛したのです。完璧な欠点のない人を除いてはですが、。

母は動物好きでしたし、わたしたち子供たちと外の世界を探索しながら散歩をするのも好きでした。ある夏の日には、我々 子供たちに貝殻のコレクションコンテストをします。賞品は みんなに チョコレートファッジが与えられました。

手元の残された写真を見ると、母がいかに動物と自然が好きであるかがわかります。特に猫のペニーのことを大変可愛がっていました。ペニーは母にとって、子供の様な存在だったのです。実は みんなで猫を貰いにシェルターを訪れた時、ペニーが自分から母の腕の中に飛び込んできたのです。母は愛されることが大好きだったんですね。

ある時は 恥ずかしがり屋で内向的、又 ある時は人なつこく外交的。母を知ることとは素晴らしいことでした。

その母の心からあふれるでる喜びで、母を知り又愛する全ての人々が満たされていきました



# Elisabeth Joy Chaplin Lloyd

By Bessy Inomata



My mother, Elisabeth adored and was adored by my father. She was serious but funny. She had great interpersonal skills as well as intrapersonal skills. She enjoyed both young and not so young friends. All in all, Elisabeth was a stunningly beautiful woman in every way.

Like many women of her generation, my mother supported and encouraged my father in his work as a missionary and a priest of the Episcopal Church. She often taught and entertained beside him. At the age of nineteen, this brave woman married and followed her sweet-

heart to Japan. There, she embraced the culture, language and people. My mom took language lessons in Kyoto, and practiced every day by going to the market and chatting with the vendors. She taught cooking and English language classes at Saint Andrew's Church in Yokkaichi.

My mother was an intellectual and a clown. Mom returned to get her BA, then a couple of Masters after raising five kids. Discussions about religion, psychology, education, and life could get pretty intense. But then, she would crack us all up by singing about elephants playing on spider webs! She taught her children to strive for excellence, but stay humble. Always be willing to laugh at human foibles, especially the foibles we all have. No one is perfect. And that is just fine by Elisabeth Lloyd. In fact, she was never terribly fond of "perfect" people!

What patience and kindness Elisabeth had! Working with the very young and then with all ages to create an army of educated warriors, at home, at school, and at church. She loved everyone! Oh, except the perfect people!

My mom loved animals. We spent a lot of time walking and exploring the outside world. One summer, she had a seashore collection contest for her kids. She gave prizes to all of us (pieces of fudge). Photographs show her love of animals and nature, especially her love for one particular cat named Penny. Penny will always be her favorite child because when they went to the shelter to find a cat, Penny apparently leapt into her arms. Mom loved to be loved!

Sometimes shy and introspective, but at other times, friendly and outgoing, my mother was a wonderful person to know. Joy overflowed from her heart to all those she knew and loved.

# LETTER TO MJM

By Michiko Tomioka

Dear MJM Members:

Please accept my deepest gratitude for the precious lesson, by which I learned the importance of being honest and self-respectful.

In New York, we have been still in the midst of the COVID-19 pandemic but it has given me the simple but the deepest lesson, "Day by day, appreciation to each moment." This is especially true when I saw a big change occurring in America during my three week-trip to Japan in March. Of course, all churches and schools, other than essential stores and communities were completely closed. I made four wishes during the two - week mandate quarantine period in March. 1) Communion at St. Andrew's and/or the Cathedral of St. John the Divine. 2) Meeting my dear daughter confronting this challenge with great perseverance in Manhattan. 3) Chado and Kimono practice as an independent Japanese. 4) Praying to Buddha in the Metropolitan Museum of Art. I was actually surprised at my very honest choice.

Also, "New normals by the COVID pandemic period" caused me to reconsider my identity and roots as a Japanese who happened to be in the US.

Since my home church offered on-line services only without choir duty, I was able to explore varied worship and theological studies at churches including National Cathedral in Washington. Especially, through MJM monthly worship and Japanese South Bay Community worship, I have learned people's depth of wisdom and their own beliefs built up through their lifelong journeys. I was very happy to offer a total of ten- week classes of Nutrition, Mindfulness and Wellness to friends, community members, and MJM members, as a part of my appreciation. I also love joining weekly MJM "Oyatsu" zoom. We have no meeting agendas, nor rules, but each week we have new discoveries and enjoy having a free discussion about any concerns ; why is Christianity called Jesus's lesson not the way of Jesus? which should Shinto be called , the way of god or god's lesson? consider whether we are Asians or Japanese? what are the roots of the cause of Buraku?

But for loving support from both St. Andrew's Episcopal Church and JCC (Jewish Community Center in Tenafly), our 27 years of American life could not have existed for such a long time. They have been our extended family with no boundary of religion and nationality. At the same time, my Japanese roots have been slowly growing and questioning to my other self who has been trained to become a well- adjusted "nice person." Last November 2<sup>nd</sup>, an invisible, spiritual power invited me to the Cathedral of St, John the Devine Saturday worship... where I met Kyoko Toyama san to open door to the MJM community. Without MJM, my COVID -19 pandemic has been totally difficult to face up to .

I have a belief that the power of love and prayer unites all religion and nationality, so we can respect uniqueness and differences all humans possess. I think Mr. Fred, Honaman a living legend in the MJM community, is smiling saying, Mama Mia!

In sincere appreciation for what MJM has done for me.

## MJM出会い一年記念、自分に正直になることの大切さと楽しさを教えてくれたMJMの皆様に感謝を込めて

富岡 美智子

コロナ影響を直面に受けたニューヨーク近郊、当たり前だった地元教会はもとよりほぼ全ての公共施設等が閉鎖、限られた生活は在米日本人としての自己のあり方を考え直す掛け替えのない機会となりました。3月初旬、コロナ騒動中の日本への一時帰国、出発時は通常だった後のNYの情勢が3週間激変、明日のことはわからない、毎日を大切に感謝して過ごしたい。NJ帰宅後2週間のお籠り中に認めた私の希望、1) 地元教会と大聖堂での聖餐式2) NYC単独籠城の娘との再会3) 和装と茶道修行 4) メトロポリタン美術館内の仏像“参拝”、偽りのない私自身に驚かされた。

パンデミック中、私の母教会のオンライン礼拝聖歌隊休憩中の“恩恵”を受け、大聖堂礼拝と聖書会、日系教会での日本語礼拝に参加。皆様、長い経験の中、現地に自然に溶け込む中で本来の自分をしっかり見据えておられる。その中で私にできることは？ 伝統和食の知恵を基本とした、栄養と成人病予防と自己心身総合健康管理の栄養・料理講座を和食育・栄養士仲間提供、MJMの大先輩にも参加いただいたことは私にとって大きな支えとなりました。



27年に及ぶ米国生活を振り返ってみると、ひょんなことからニュージャージー郊外のS製アンデレ教会とユダヤ系のJCCコミュニティーセンターに参加。当時は仏教と出会った私たち家族を宗教、人種を超え迎えていただき、その教会・JCCを通して知り合った様々な方々のお陰で今の私達がいる。その中で何かを抑えている本来の美智子との葛藤がお大きくなっていた時、急かされるように訪れた大聖堂で遠山京子さんに出会い、そしてMJMに参加させて頂くきっかけを与えていただきました。

毎週木曜日のMJM おやつ会では何故、キリスト道でなくキリスト教、神道か神教、アジア人か日本人か、部落問題と人種差別、そんな討論は自然。そう、自分らしく生きることで当然とも言える習慣・思考の違いを心から尊敬できる。正直言って祈りと愛は宗派、宗教、人類共通との考えは変わらない。大尊敬のフレッドさんの“マーマミア”との笑顔が浮かぶ。MJMに感謝を捧げます。



## The Song of the Books of the Bible

I will share the song of the books of the Bible and the copy of the piece of music in Japanese with you. The song was taught by my grandmother when I was a child. She encouraged and coaxed us grandchildren to sing the song repeatedly at every opportunity, and so naturally we could sing it from memory.

Actually, my aunt, Kikue Uematsu, who was my mother's sister and Isao Uematsu's mother, showed the copy to me in May 2017. It was my last meeting before her passing away. My uncle, Bishop Uematsu died in March, my mother in June, and Kikue in December, which happened all at once in the same year of 2017. Despite their different personalities, the two sisters were very compatible among their four brothers.

Kikue became a doctor and my mother, a musician but both of them became the wives of the clergymen. I think this must have been influenced greatly by my grandparents.

My grandmother went to and trained by English missionaries at the Episcopal Theological Seminary of Hokkaido when young. She studied diligently enough to remember almost all of the Old and New Testaments and we, grandchildren, were taught the Bible by our dear Grandma. Meanwhile, she was very skilled at making marmalade and brewing a delicious cup of tea, all she could master through the missionaries.

Because her knowledge of the Bible was extraordinarily good, even my grandfather, Rev. Masao Matsumoto was helped out by it. While preparing sermons or stories from the Bible, he often called her for help, "Dear, where can I find this Word or Phrase? "That is the Gospel,,, Chapter,,,, Verse,,,,," with no trouble answered she. These memories carry me back to Grandma.

My grandmother, now in Heaven, must be very pleased to know that the song would help you learn and understand the Bible

I hope you will have safe and healthy days.

The first Sunday of Advent in 2020.-

Tomoko Masur



## 聖書の数え歌

11月の聖書会で皆様に求められた聖書名目尽くし（私たちは数え歌と言ってましたけど）のサイトをお送りします。そのトップにあるウェブサイトのリンクをコピーしてご自分のコンピューターにインプットするとこれを歌うための数え歌の曲も聴くことができるはずですよ。

このコピーは私が私の叔母植松喜久江（私の母の妹で植松功の母上）を2017年5月に訪れた際見せてくださったものでその時の久しぶりの会合が叔母とこの世での最後の会合となってしまいました。叔父植松主教は2017年の3月に故人となっており母はその6月に逝き叔母は12月にとまるで申し合わせていたかのように揃って逝ってしまいました。まるで性格の違った姉妹でしたが男の兄弟4人に挟まれとにかく仲が良かった。一人は医者に一人は音楽家にそして二人とも牧師の妻となったのも私の祖父母の影響だったのでしょ。

祖母は北海道の聖公会のミッシヨナリー養成所でイギリスのミッシヨナー達から仕込まれ、マーマレードの作り方と素晴らしい紅茶の入れ方をマースターする傍ら、旧新約聖書をほぼ暗記するほど勉強していた人で聖書は私たちは祖母（おばあちゃま）から教わりました。そのおばあちゃまにことあるごとに歌わされ子供の頃にすっかり覚えてしまったのがこの聖書数え歌。これで今までどんなに助かったことかわかりません。牧師だったおじいちゃま、松本正雄司祭が説教の準備や聖書のお話をしている時によく、“かーさん、この御言葉は聖書の何処の箇所だったかな？”と聞くと”それは何書の何章何節ですよ”とことも無げに答えていたおばあちゃまのことを思い出します。

この歌が皆さんにも聖書を紐解くのに役立てていただければ天国のおばあちゃまはきっと嬉しく思ってください。どうぞお体に気をつけてお過ごしください。 マズア偕子

於2020年降誕節第一日曜日

ともこより

**John Singer Sargent-1895-Boston Public Library-**

*Left to Right-Zephaniah, Joel, Obadiah, Hosea (West Wall); Amos, Nahum, Ezekiel, Daniel, Elijah (North Wall); Moses; Joshua, Jeremiah, Jonah, Isaiah, Habakkuk (North Wall); Micah, Haggai, Malachi, Zechariah (East Wall)*



## 従姉エリサベス（リズ）、安らかに。 デイヴィッド・エディー

エリサベスロイドさんが 2020年4月7日に天国に召された事をお知らせいたします。大変悲しいことですが、皆がリズの状態を心配している中でしずかにその生涯を閉じました。MJMの家族にとって愛されるお母さんであったリズは（いつもの様にリズと呼びます。）教師でも牧師でもなく、ましてや人々をまとめる管理者でもなく、むしろ皆の話に耳を傾け、慰め、その人その人をありのままに受け止めてくれる大切な存在でした。

リズが亡くなった時期は、皆が私個人も含めてコロナの為自粛生活を余儀なくされ、まさに暗い戦いの最中で憂鬱な悲しいことが続く中、もう一つそれに追い討ちをかける様な辛い出来事でした。

現在は少し気持ちが落ち着いてきて、従姉リズの人生とその愛を追悼することが大切と思うようになってきています。

リズはジョンロイドと同様に 私にとって血の繋がっている従姉でしたが、親戚だからという以上に大きな意味を持つ存在でした。リズの人生に対する愛、その微笑み、我々を楽ませてくれる何か、どれも彼女の持つ敬虔な宗教観からくる特別なものでした。晩年、複雑なことが多々起こる中でも、そのユーモアのセンスと笑いで記憶の曖昧さを乗り越え、命とはたくさんの豊かなものを与えてくれるという見本を示してくれました。しかもリズはそれを謙虚で控えめに見せてくれました。

少しリズの生い立ちに触れます。リズはイギリスで育ち 第2次世界大戦中に母上と共に、最初ボストンに、その後コネチカット州のグリニッチに移ります。母上は高名な神学者で ニューヨークの神学校で教鞭をとっていました。リズはその母から宗教学と多方面に渡る興味の大切さを教えられ、長年に渡り the Society of the Companions of the Holly Crossの敬虔なメンバーとなります。

その後、ジョンロイドと巡り合い 愛に満ちた結婚をするのです。その時リズはわずか19歳、スミスcollegeの学生でした。そののち 大学を中退し、夫のジョンとともに1960年の終わりまで日本に滞在します。

夏のひと時を Eddy家（私の家族）とロイド家は長野県の野尻湖で一緒に過ごした思い出があります。又 ジョンとリズは1960年から1967年までアメリカの北大センター（北海道大学センター）のディレクターでもありました。

米国帰国にあたり、この二家族は横浜港出発、ホノルルとパナマ運河経由でニューヨークまでの4週間にも渡る長い船旅を共にすごしました。他の家族がいない中、一緒に過ごした貴重な二家族でした。こんな経験から、ロイド家は私自身の家族と同様と言っても過言ではありません。

わたし がMJMとの関係を深めていくにつれ、ジョンとリズとも親しい交流が再開しました。2人のお互いへの愛と喜びが MJMの全員に浸透、広まり、そのおかげで人々もますます心豊かになっていったのです。

リズの亡くなる1、2ヶ月前に ジョンと共に晩年を過ごしていたニューヨークのブリストルナーシングホームにリズを訪ねました。彼女は会うとすぐに私が誰であるかが分かり、大きな笑顔を見せられました。そして、「ジョンはいつ戻るの？」と聞くのです。

私はなんと答えて良いか戸惑いました、、、。

実は 私も「リズはいつ戻ってくるのだろうか？」と時々自分に問いかけます。でも残念なことに リズはもう我々の住む世界には戻って来ないのです。リズはこの世界よりもずっと良い場所に愛する夫ジョンと共に過ごしているのですよね。

それでもなお、リズに会いたいと心から恋しく思っています

## **Cousin Liz-Rest in Peace by David Eddy**

It is with much sadness that MJM marks the death of Elisabeth Lloyd on April 7, 2020. She died in the middle of the pandemic, quietly passing during the peak of the anxiety and shut down here in New York. Liz Lloyd was the beloved matriarch of the MJM family, not the teacher, not the preacher, not the administrator but the listener, the nurturer, the one who appreciated and enjoyed you for who you were.

Many of us, myself in particular, were so caught up in the day to day trench warfare of Covid quarantine containment when Cousin Liz died. Her passing was another blow in a series of depressing, dark events. The skies have now lightened somewhat. It is important to commemorate the life and love of Cousin Liz.

Cousin Liz was an actual blood cousin, as Cousin John was known to say. But she was much more than this. For MJM it was her love of life, her laughter and amusement contained within a very serious and religious persona that made her unique. Even when dementia overtook her in her later years, her sense of humor, her laugh, was a beacon that pierced through the confusing fog of her memory loss and made one realize how much she exemplified what life had to offer, even in its humblest state.

I know little of her background. She grew up in England and during the WWII she moved with her mother from England to Boston and then Greenwich, CT. Her mother became a very well-known theologian teaching at one of the seminaries here in New York. Her mother's interest in religious studies was shared by Liz who was a devout member of the Society of the Companions of the Holy Cross for many, many years. She met and married the love of her life Cousin John when she was 19. Soon thereafter she was gone from Smith College to Japan where they were until the mid to late 60's. The Eddy's and the Lloyds shared houses in Nojiri; John and Liz were directors of Hokudai Center while we were in the US in 1960 and in 1967; the Lloyds and Eddys were the only two families on a long four week freighter voyage from Yokohama to New York via Honolulu and the Panama Canal. The Lloyds were family.

It was with real pleasure that as I became more and more involved with MJM, I renewed my relationship with both John and Liz. Their love and enjoyment of each other spilled into their natural affection for the entire MJM family and we were all the better for this.

I visited Cousin Liz at the Bristol about a month or two before she died. She instantly recognized me and broke into a wide smile. She then asked when John was coming back. I didn't know quite what to say.

I now find myself occasionally asking when Cousin Liz is coming back. Unfortunately, she's not coming back to this earthly life but she is in a better place with her beloved husband John. I don't know quite what to say. She will be sorely missed.

# MJM東京のそもそもの始まりは？ 佐藤光子

1990年秋私が帰国することになりラスティのバイブルクラスで

送別会を兼ねたクラスがあった。つけていたヨークを私に下さり東京でもMJMを立ち上げるようにと言われた。以来、途中経緯は色々あったがまだ東京で集会を毎月持つことは神さまの祝福とお導きがあつての事と感謝している。皆さんの持つタレントが生かされているとつくづく思う。

ラスティのバイブルクラスは英語の勉強はもちろんの事、聖書へのアプローチがユニークで刺激的だった。私の経験しなかった聖書のアナリシスが特に印象的で、例えば聖書の記述の中の動詞の説明で「これは本来軍隊用語である」と指摘され説明があつて新しい言葉の意味と同時にその背景も知ることが出来た。

マルチタレントの彼は当時は若くハンサムだったので女性たちに人気であつた。音楽にも造詣が深かつたと亡くなってから知り音楽が好きな私と色々な話しが弾んだろうと残念に思っている。

## A Real Origin of MJM Tokyo.....

Mitsuko Sato

At the end of October in 1990, I attended the Bible class of Rusty Hesse's, which was my last class and farewell party as well because of my departure from the USA. He took off his priest collar and gave it to me asking to initiate MJM in Tokyo.

His Bible class was impressive to me. His analysis of the Bible was unique. I learned not only the meaning, but the background of the words in the Bible. Handsome and young, he was very popular among the ladies.

I didn't know he was multi talented in music. If I had known that, I would have enjoyed talking about music in general. We continue having Tokyo MJM gathering every month, thanks to God blessing and everybody's corporation



アグネス中野友子

1958年 8月8日—2019年 10月26日。

長い間MJMのメンバーであり、中野かずみさんの伴侶であられたアグネス中野友子さんが2019年10月26日に亡くなられました。

中野さん御一家は 今回 再度のニューヨーク生活であり、すでに ロングアイランド住居を構え、またMJMに戻っていらしゃっていました。

友子さんはブルックリン日本語学院の校長先生で、皆さんに慕われていらしゃいました。





立教大学の教育学部で小学校教育及び教職の学位を取り、1980年にご卒業なさっています。

友子さんにお会いになる人々はひとめで友子さんが本当に素晴らしい校長先生、及び教育者であるという事がわかりました。包み込むような笑顔で人々に接し、良き教育者としての能力と知性あふるる女性でした。かずみさんと友子さんご夫妻はMJMの月例礼拝に出席なさり、ご夫妻ともに理事会の理事としてお働きいただくよう推薦されました。

かずみさんがMJM礼拝のお説教の中で、お二人が立教大学時代にどのように出会い、お親しくなったか、またその後の御結婚までの過程を話してくださっています。

お二人のお子さん、あやこさんとグレースさんに恵まれ、お二人共ご両親が持たれる魅了と意志の強さを受け継がれているお嬢さん方です。

友子さんの告別式は中野さん御一家が長い間教会員であるニューヨーク、プレインビルの聖マーガレット教会において、イサイアス ジンソン司祭により執り行われました。私たちが参列させていただき、かずみさんとともに友子さんの死を悼みました。

## TOMOKO AGNES NAKANO

Aug. 8, 1958-Oct. 26, 2019

Tomoko Agnes Nakano, long time member of MJM and wife of Kazumi Nakano passed away last year on October 26, 2019. The Nakano's were MJM returnees and Tomoko and Kazumi had within the last three years returned to Long Island and rejoined MJM.

Tomoko was the beloved principal of the Brooklyn Nihongo Gakuin, fulfilling a role that she had trained for when she attended Rikkyo University. She graduated in 1981 with a degree in Elementary Education & Teaching.

Anyone that met Tomoko would instantly understand what an outstanding principal/education she was, given her welcoming smile, her competence and her intelligence. She and Kazumi were requested to join the board of MJM shortly after they started attending the monthly services.

Kazumi met Tomoko while they were both a Rikkyo. He spoke about their first meeting and their courtship during a homily he gave at a MJM service. Tomoko and Kazumi had two children Ayako and Grace who very much embody the charm and determination of their parents.

The service was held at the Church of St. Margaret in Plainville, NY where the Nakano's were long time members. Rev. Isaias Ginson celebrated the life of Tomoko. We join Kazumi in mourning the passing of Tomoko. She was very much a light to this world.

## **Introduction to New Board Members Eiko Uematsu**



植松栄子

緑豊かなニューヨークの郊外に住んで40余年になります。

子育をし、時には仕事をして、忙しい毎日でしたが、今はリタイヤして静かな日々を過ごしています。読書会の友人達と様々な分野の本を読んだり、晩秋の今、赤や黄色に彩られたトレイルを歩くのが楽しみな、今日この頃です

It has been 40 years since I began to live in the suburbs of New York where it is full of greens.

I was very busy with bringing up my children and working at the same time, but after retirement, I have just quiet daily life.

I enjoy reading various books with friends in the book - reading group, daily-strolling along the trails surrounded with red, yellow foliage in the late fall.

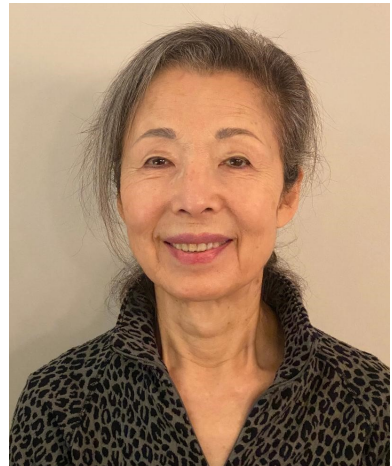
## **Introduction to New Board Members Hatsuyo Stroh**

2008年に不思議な偶然で久美子 Bullerさんとお知り合いになり、MJMの存在を紹介されました。

私はクリスチャンではありませんが偶然にもその頃聖書について学びたいと考えていたので聖書会に入れていただき、WestchesterのMJMメンバーの皆さんのお家にお邪魔をして聖書を学ぶようになりました。日曜日の礼拝にも出席し、クリスマスやイースターのサービスでは洗礼を受けたクリスチャンではない私も心から楽しい集いを経験させて頂きました。

私はよく知らないことを簡単に引き受けてしまう悪い癖があって、MJMの恒例のサマーキャンプの開催までさせて頂いたのもMJMに参加して間もない頃でした。

聖書会は以前はマンハッタンでも開かれていたようですがしばらく行われていませんでしたので、その後マンハッタンのメンバーのために我が家で開かせていただいています。ウイルスの問題が収束して我が家での聖書会の再開が待ち遠しいです。



## **Introduction to New Board Members**

### **The Rev. Tami Burks**

The Rev. Tami Burks currently serves as Associate Rector at St. Thomas Episcopal Church in Mamaroneck. Born and raised a Lutheran, she was received into the Episcopal Church in 2007. Tami is passionate about offering Christian formation, preaching, and worship that equip parishioners to go out and be Christ's hands and heart in this world. Before discerning a call to the priesthood, she was a teacher and director of Christian education in a variety of schools and churches in Pennsylvania and New York. She holds a Master of Arts in Religion from Gettysburg Lutheran Seminary, a Master of Science in Early Childhood Development from Bank Street College, and a Diploma of Anglican Studies from General Theological Seminary in New York.

She enjoys hiking, journaling, geocaching and playing board games and admits to being ridiculously competitive at Pictionary, Charades and Bananagrams!

Tami has three young adult sons. She is grateful to the MJM Board for the opportunity to learn and grow as part of this cross cultural expression of the church and looks forward to forging new spiritual relationships.



### **タミ パークス司祭**

タミ パークス司祭はニューヨークのママロネックにある聖トマス聖公会教会で準司祭としてお働きです。ルーテル派として育ちましたが、2007年に聖公会会員になりました。司祭は人々がキリストの手と心に従って行動できるように、キリスト教の普及をし、お説教などで人々の信仰を支えるため熱心にお働きです。司祭になられる以前は、ペンシルバニア州、ニューヨーク州の多くの学校や教会でキリスト教教育ディレクターとして、又教師としてもお働きでした。ゲティスバーグルーテル神学校で宗教修士を、バンクストリート大学で幼児発達理学修士を、又ニューヨークのジェネラル神学校では聖公会研究の学位をお持ちです。

趣味はハイキング、ジャーナリズム、ジオキャッシング、ボードゲームをすること。ピククッションアリー、シャレード、バナナグラムなどのゲームは特に好きです。

3人の十代の若者の母でもいらっしやいます。

MJMの理事に加わることが異文化交流を学ぶ成長の良い機会になると思っていっぱやいます。又、新しい関係が築かれる事も楽しみに思っていっぱやいます。



## The Rev. Rusty Hesse In Remembrance

Margaret Matsumi Miura

It was about 30 years ago when Rusty took off his yolk from his neck and gave it to Mitsuko Sato, telling her to continue the MJM activities in Japan. Mitsuko, faithfully and consciously, followed his guidance and encouragement to start the mission in Japan. I was grateful to be there at that moment and observe the happening. Thought it might have been Rusty's little thought, I believed it must have been God's calling through Rusty.

Personally, Rusty gave me a great opportunity to receive baptism. He said that Christianity is with-in me. I was astonished to hear his words, but this guided me to consider it would be very necessary to receive it. It took more than a year for me to have actual baptism, but I am very appreciative of Rusty's offer. Also, while reading the Gospel of John at his Bible Study, the story of "Return to God" there was so impressive and has stayed with me since. I have a great appreciation for the Rev. Rusty Hesse.

ヘシー司祭を覚えて

マーガレット 三浦万都美

約30年前、Rustyが自分の首から付けていたYolkをとり、日本に帰国する佐藤光子さんに手渡し、Returneesを集めてMJMの活動を続けてくださいと伝えました。誠実な光子さんは日本でこのMissionを実行しました。

突然の思いつきだったと思いますが、そこにはイエスさまの導きがあったのだと私は思います。その場の立会人のひとりであったことは感謝です。私ごとですが、洗礼を受けることを決めるきっかけのひとつに、Rustyが、私にすでにChristianityが、内側に持っていると言って頂いたことです。驚きましたが、ならば受洗は

必然かと考え始めました。受洗したのは一年以上後のことですが、私にありがたい言葉でした。そしてRustyの聖研でヨハネ伝を読んでいたとき神に立ち返る話がありました。それも信仰生活において、心に刻んだ話でした。

ありがとうございました。

**CHRISTMAS DAY**

**MJM SERVICE**

**5 PM EST**

Right Rev. Alan Shin

Presiding

Zoom Caroling & Good Cheer

Post Service

Details on MJM website & by email

Contact [mjmny.info@gmail.com](mailto:mjmny.info@gmail.com)

## **INTRODUCTION TO NEW BOARD MEMBER HATSUYO STROH**

It was such a miraculous coincidence to get acquainted with Kumiko Butler in 2008, by whom MJM was introduced to me.

As I had been curious to study the Bible, I joined the Bible Study though I was not a Christian. All these happened naturally without any human plans.

I have participated the Bible Study at the members's houses in Westchester ever since. The Bible Study is really meaningful and yet quite enjoyable gathering. I attend a monthly service, Christmas Service and Easter Service as well. Soon after joining MJM, I organized the annual MJM summer retreat. This was the request from MJM and I simply did my job with pleasure.

The Manhattan Bible Study, which seems to have been held before, resumes at my house for people in Manhattan. I am willing to be a host for the Bible Study again when the pandemic is wiped out.



### **FUMIKO SAKAKIBARA**

#### **Pastoral Care & Bible Study**

*MJM is pleased to announce that Ms. Fumiko Sakakibara has been appointed as a pastoral care coordinator for MJM. In addition she continues her role leading the bible study groups and giving homilies at the monthly service.*

Born in Chiba in 1977, and raised in Yokohama. Having been exposed to the culture and doctrines of Christianity through an exchange year in England as well as studying at International Christian University, was baptized in 2009 at St. Timothy's Church in Tokyo. By the guidance of Rev. Kentaro Takeuchi, travelled to Boston with the three children to matriculate at EDS(MDiv), and then moved to NYC to study at General (MA in Theology, STM). Currently working at the Church of the Transfiguration as an intern chaplain to fulfill the requirement of Christian Pastoral Education CPE.

1977年千葉生まれ、横浜育ち。高校時のイギリス留学、のち国際基督教大学でキリスト教の文化と教義に触れ、10年余りの求道を経て2009年に東京聖テモテ教会で受洗。2015年、竹内謙太郎司祭の勧めを受けて神学を学ぶために3人の子を連れて渡米、EDS入学、MDiv取得後、Generalでさらに神学修士課程に進み、卒業後の現在はチャプレンインターンとしてThe Church of the Transfigurationで勤務中

# CHRISTMAS OFFERING

I hope you and your family are doing well.

We are approaching the end to an unusual year with a COVID-19 Pandemic and limited person-to-person gatherings for our monthly and seasonal meetings for most of it. We have learned to navigate the Virtual world gatherings, and we found the most unforeseen benefit - that we can get together with folks from all over the world, including our friends in Japan! So our ministry is not only thriving, but are expanding. We have many hopes to begin programs for the year 2021. However, these will require your constant financial support through your contribution, and hence we are making an appeal to you, our friends and members.

We are working on setting up on-line donations, and we will let you know when it is available. In the mean time, we can accept checks as we have always, written to: "**Metropolitan Japanese Ministry**" and sending it to the address shown below.

Thank you for your support!

Shoji Mizumoto  
Treasurer, MJM Board

皆さま、

お変わりありませんか。

年末も間近、非常に異例なパンデミックにより、毎月の集まりが全く出来なくなってしまった2020年も、もうわずかとなりました。バーチャルの世界での集まりを余儀なくされた反面、不思議にも、普段はお会いできない方々ともズームを通してお会い出来るようになった事は、思いがけない利点となりました。世界中からの参加が可能になったことで、日本へ帰国された方々もバーチャルでの礼拝や聖書会に参加できる様になり、こうしてMJMの活動が活発に続いていけるのは嬉しい限りです。2021年度のプログラムに期待を膨らませている次第です。しかし、皆さんの支えがあってこそ、この特別なミニストリーを続けていくことができます。そこで改めて、MJMの会員の方は勿論、支援してくださっている方に寄付のお願いをしたく、こうしてご連絡させていただきました。

オンラインでの寄付は、機能が可能になり次第、直ぐご連絡致しますが、その間、小切手は今まで通り承っておりますので、「Metropolitan Japanese Ministry」宛てに是非、郵送でお送りください。

住所は、以下の通りです。

皆様のご協力をお願い致します！

水本正二  
MJM 理事会 会計

Metropolitan Japanese Ministry  
c/o St. James the Less  
Crane Road & Church Lane  
Scarsdale, NY 10583

# お知らせ

MJMの活動及び寄留者は皆様からのブレッジにより支えられています。これからも引き続き、神様に導かれ活動出来ます様、ご支援をお願い致します。

---

毎月ズームで行われていMJMの聖書会に是非ご参加下さい。聖書を通しての楽しい親睦会でもあります。お問い合わせはEメールにてお願い致します。

[mjmny.info@gmail.com](mailto:mjmny.info@gmail.com)

---

寄留者では原稿、写真などを募集しております。スペースの都合上、原稿サイズは 寄留者の1ページに収まるようお願い致します。原稿はEメールにてお送り下さい。

[mjmny.infor@gmail.com](mailto:mjmny.infor@gmail.com)

---

MJMオフィスでは下記の時間、担当者がおりますのでご連絡下さい。

月曜 午後12時-3時

電話番号914 723-6118

---

## KIRYUSHA STAFF

Editor David Eddy  
Translators- Akiko Watanabe  
Kyoko Toyama  
Logistics: Kumiko Buller

Special Thanks to Copies Unlimited of White Plains who have been our printing partners for over twenty years.

# Announcements

We appeal to you for continued financial support. Your support and contributions are vital to the operation of our ministry and the distribution of the *Kiryusha*. Whether your donation is large or small, it is your interest and support that allows MJM to continue to serve Christ through our ministry.

---

Come to BIBLE STUDY currently held each month on zoom. Please inquire at the website of [mjmny.info@gmail.com](mailto:mjmny.info@gmail.com).

---

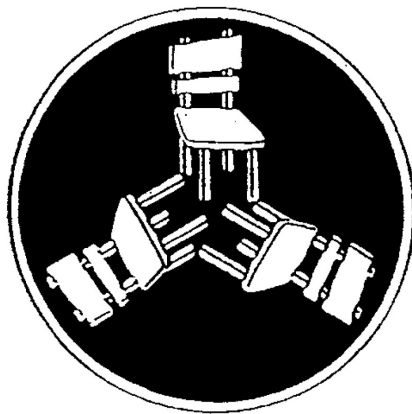
*KIRYUSHA* welcomes all articles and photos with the understanding that not all submissions will be printed. Because of our format, we encourage shorter rather than longer articles. Your submission should be sent to [mjm.ny@mindspring.com](mailto:mjm.ny@mindspring.com).

---

The MJM office is open on Mondays from 12:30 to 3:30 p.m. Messages can be left at any time during the week and will be returned on Monday. Phone number is 914 723-6118.

## MISSION STATEMENT

*MJM is a ministry of the Episcopal Church of the United States and Japan (Nippon Sei Ko Kai) to the Japanese people which seeks to be an open, inclusive body providing spiritual care and support to all people reflecting the spirit of Christ as it builds bridges between cultures.*



## METROPOLITAN JAPANESE MINISTRY

c/o St. James the Less, 10 Church Lane, Scarsdale, NY 10583

E-Mail: [mjm.ny@mindspring.com](mailto:mjm.ny@mindspring.com)  
[mjmny.info@gmail.com](mailto:mjmny.info@gmail.com)

Website: [mjmny.org](http://mjmny.org)  
Fax 914 723-3776